

No. 305【2018年5月11日配信】

「萬町」はいつからある地名？(担当：工藤)

こんにちは！ 室長の工藤です。

「むかしの地名」について調べていたところ、ひとつ気になる地名を発見しました。それは、かつて JR 青森駅の西側にあった「萬^{よろずまち}町」という地名です。この地名は、昭和2年(1927)に青森市が滝内村の一部を合併した頃まで存在したと、『西部六町会連合記念誌「わがまち」』(1999年刊、以下『わがまち』と略記)に記されています。

では、いつからある地名なのでしょうか。

現在、篠田1丁目の保育園前に萬町の由来を記した標柱があります。それによれば、名前には「末永く栄える町」という願いが込められていて、寛政年間(1789—1801)以前からあるといえます。つまり藩政時代からある地名ということになるのですが、そうなるといくつか疑問が浮びます。例えば、「町」とついていることもそのひとつです。青森町のなかにある米町・浜町…といった町名であれば「町」とついても不思議はないのですが、萬町は青森町の外に位置しています。



萬町の標柱

「藩政時代」の地名だとすれば、少なくともオフィシャルなものではないと考えられるのです。オフィシャルな「町」であるならば、「町奉行」がいたでしょうし…。

一方、『わがまち』では、萬町は沖館村の名主「浅利萬太郎」に由来し、彼は私財を投じて用水堰「萬太郎堰」を開削したと記しています。この浅利萬太郎については、昭和28年に肴倉弥八が著した『青森市町内盛衰記』、また昭和41年に郷土考古学同士の会が発行した(著者は鈴木政四郎)『滝内町誌』『大野町誌』にも記述があり、出自を「大阪落城の落人」としています。これにしがえば、萬太郎は17世紀前半の人物といえるでしょう。

つまり、史料的な根拠はともかく、「用水堰を開削した功労者浅利萬太郎」が人々の間に語り継がれ、これを背景に地元では萬町は浅利萬太郎に由来するという話が生まれたと考えられます。

「萬町」をめぐるふたつの由緒、印象としては「萬太郎」由来とする方が合理的であるように思います。また、「寛政年間以前」からの地名であるということは、寛政年間の記録に「萬町」が出てきていることを示唆します。

また、近代以降においては、正式な地名なのか慣用的に使われた地名なのか…この辺りが次の私の課題になるのだろーと思っています。